

# 2021年度(2022年3月期) 第2四半期決算説明会

2021年 10月 29日  
セイコーエプソン株式会社

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

- 本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。  
実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新製品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。  
なお、業績などに影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 事業利益について

- 事業利益は、売上収益から 売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しています。  
連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の営業利益とほぼ同じ概念であることから、連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しています。

■ 本説明資料における表示方法

- 数値：表示単位未満を切り捨て
- 比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入
- 年号：断りが無い限り、会計年度を示す

## ■ ご説明のポイント

- 第2四半期実績
- 2021年度通期業績予想
- 株主還元
- 企業価値向上に向けた取り組み

- 第2四半期は、COVID-19影響からの市場回復が進み、前年同期比で増収増益
  - 社内計画に対して、売上収益は部材調達難・物流混乱による供給制約があり未達。事業利益は、需給バランスと部材コスト・輸送コストの増加を踏まえた価格対応の実施、費用抑制により、上回った
- 下期は、部品調達難・物流混乱の継続に加え、部品コストが一段と上昇、中国など世界経済の一部に陰り
  - 価格対応や費用抑制を継続
  - 将来成長に必要な費用投下、投資は着実に実施

- 本日のご説明のポイントはご覧の通りです。
- 第2四半期は、新型コロナウイルス影響からの市場回復が進み、前年同期比で増収増益となりました。
- 社内計画に対しては、売上収益が、部材調達難・物流混乱による供給制約があり未達だったものの、需給バランスと、部材コスト・輸送コストの増加を踏まえた価格対応を実施し、さらに費用も抑制することで、事業利益は、社内計画を上回りました。
- 足元では、部材調達難・物流混乱が一段と悪化しており、さらなる供給制約を織り込まざるを得ません。加えて、中国など世界経済の一部には陰りが見られています。
- こうした状況の中、下期は、価格対応や、費用抑制を継続する一方、将来成長に必要な費用投下、投資を着実に実施します。
- 本日はこれらについて、詳しくご説明します。

- ご説明のポイント
- **第2四半期実績**
- 2021年度通期業績予想
- 株主還元
- 企業価値向上に向けた取り組み

# 2021年度 第2四半期決算 | ハイライト

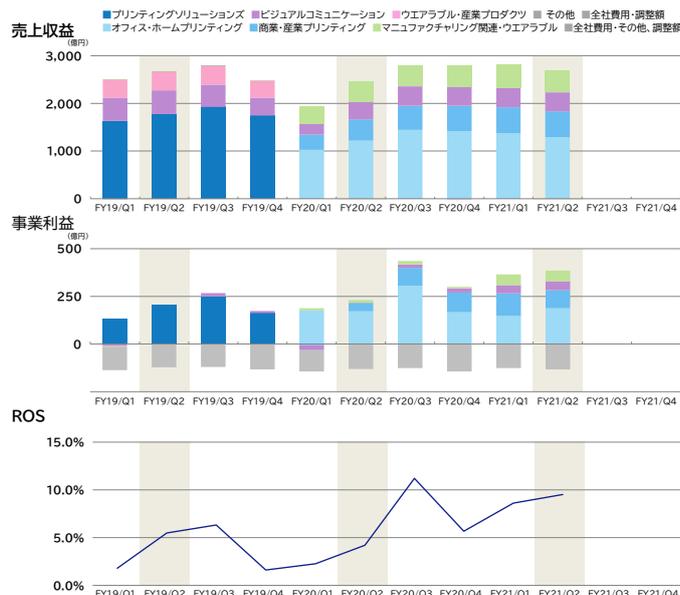
	2020年度		2021年度		対前年同期			
	(億円)	Q2実績	%	Q2実績	%	増減額	増減率	
売上収益		2,459		2,684		+225	+9.2%	
事業利益		102	4.2%	254	9.5%	+151	+147.5%	
営業利益		72	2.9%	244	9.1%	+172	+238.2%	
税引前利益		58	2.4%	243	9.1%	+185	+318.9%	
親会社の所有者に帰属する 四半期利益		44	1.8%	190	7.1%	+145	+324.4%	
EPS*1 (円)		12.95		54.93				
為替レート (円、指数)	USD	¥106.16		¥110.08				
	EUR	¥124.10		¥129.77				
	その他通貨*2	100		109				
				為替影響額 (億円)	USD	EUR	その他通貨 合計	合計
				売上収益	+30	+19	+60	+110
				事業利益	-5	+12	+32	+39

\*1 EPS:基本的1株当たり当期利益

\*2 その他通貨の各レートを為替ポリュームに応じて  
加重平均した値について、前年同期を100とした指数

- それでは、第2四半期の実績についてご説明します。
- 売上収益は、前年同期に対して 225億円 増収の 2,684億円、  
事業利益は、151億円 増益の 254億円、
- 四半期利益は、145億円 増益の 190億円となりました。
- 為替による影響は、売上収益で 110億円、  
事業利益で 39億円のプラスとなりました。
- 当四半期は、前回予想の前提となる社内計画に対して、  
売上収益は供給制約があり 100億円 程度の未達となったものの、  
事業利益は価格対応や費用抑制により 約100億円 上回りました。

## 第2四半期決算の概要



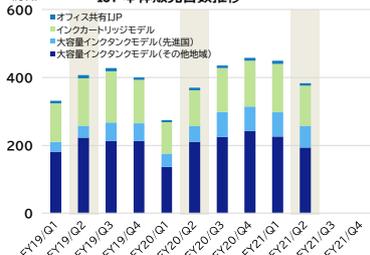
- 旺盛な需要を確実に捉え、売上収益・事業利益ともに前年同期から回復
- 成長領域は着実に伸長、成熟領域では構造改革の取り組みの成果が表れる
- 主な要因
  - 各事業でCOVID-19影響からの回復が進む
  - 在宅印刷需要は継続
  - 部材調達難・物流混乱による供給制約やコストの上昇があるものの、価格対応、費用抑制で事業利益率を改善

- こちらは、第2四半期の業績と、過去の推移をグラフで示したものです。
- 第2四半期は、売上収益・事業利益ともに前年同期から回復しました。Epson 25 Renewedでお示した領域別マネジメントのもと、成長領域は着実に業績が伸長し、また成熟領域でも、構造改革の取り組みの成果が表れ、収益性の改善が進みました。
- 市場は、新型コロナウイルスの影響で、東南アジアなど厳しい状況が続く地域もありますが、欧米や日本で回復が進みました。
- 在宅印刷需要は、前年同期と比べると落ち着きをみせていますが、依然として高い水準で継続しています。
- 一方で、部材調達難や物流の混乱による供給制約やコストの増加に対して、価格対応や費用の抑制で、事業利益率を改善しています。

プリンティングソリューションズ		2020年度 Q2実績	2021年度 Q2実績	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益		1,663	1,832	+169	+77	+10.2%
セグメント利益		216	283	+67	+27	+31.1%
セグメント利益率		13.0%	15.5%			
オフィス・ホームプリンティング		2020年度 Q2実績	2021年度 Q2実績	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益		1,223	1,298	+75	+54	+6.2%
構成比	オフィス・ホームIJP	85%	87%			
	SIDM	6%	5%			
	その他	9%	8%			
事業利益		172	187	+15	+17	+9.2%
事業利益率		14.1%	14.5%			

- プリンティングソリューションズ
  - COVID-19からの市場回復に伴い増収増益
- オフィス・ホームプリンティング
  - IJP本体は供給制約があるものの、価格対応、先進国で大容量インクタンクモデル伸長などにより増収
  - ・ IJPインクは、在宅印刷需要が旺盛だった前期から減収
  - ・ オフィス共有IJPは本体稼働台数も増加し増収
  - ・ SIDMは中国向けで供給制約などにより減収
  - 部材コスト・輸送コストの高騰があるものの、価格対応、費用抑制により増益

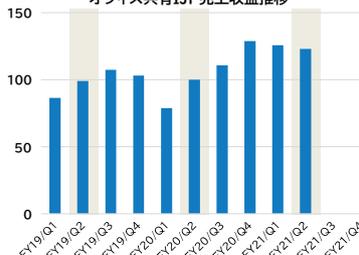
(万台) IJP本体販売台数推移



IJPインク売上収益推移(円貨、前年同期比)



(億円) オフィス共有IJP売上収益推移



© Seiko Epson Corporation, 2021

7

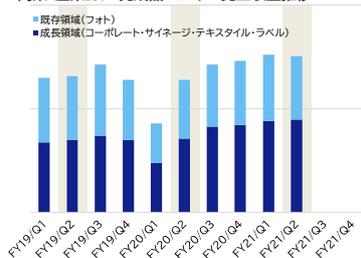
- プリンティングソリューションズの実績はご覧のとおりです。
- セグメント全体としては、新型コロナウイルス影響からの市場回復に伴い、増収増益となりました。
- オフィス・ホームプリンティングは、SIDMは中国向けで供給制約などにより減収となりましたが、オフィス・ホームIJPが増収となりました。
- オフィス・ホームIJPの本体は、前年同期は東南アジアの製造拠点で臨時休業がありましたが、当四半期は部品調達難や、物流混乱による供給制約があり、販売数量は約4%の増加に留まりました。こうした中、価格対応の効果に加え、大容量インクタンクモデルが先進国で伸長し、売上収益は増収となりました。
- IJPインクは、前年同期からは減少しましたが、在宅印刷需要は継続しています。
- なお、成長領域であるオフィス共有IJPは、日本や欧州のほか、北米や中国でも本体稼働台数が増加していることで、インク販売も増収となりました。
- 事業利益は、価格対応や費用抑制の効果により、増益となりました。

商業・産業プリンティング	2020年度 Q2実績		2021年度 Q2実績		(億円)	
	売上	利益	売上	利益	増減額	増減率
売上収益	440		534		+93	+21.3%
商業・産業IJP	294		377		+82	+28.1%
小型プリンター他	145		156		+11	+7.6%
事業利益	44		96		+51	+115.7%
事業利益率	10.1%		18.0%			

## ■ 商業・産業プリンティング

- 商業・産業IJPは、市場回復の中で販売伸長
  - ・完成品ビジネスは新製品によるラインアップ強化効果
  - ・プリントヘッド外販ビジネスは中国を中心に伸長
- 小型プリンターは供給制約がある中、先進国を中心に小売業・飲食業で投資再開の動きが見られ販売増

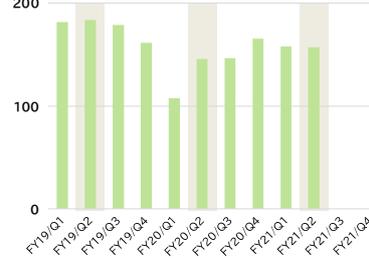
商業・産業IJP:完成品ビジネス売上収益推移



商業・産業IJP:プリントヘッド外販ビジネス売上収益推移



小型プリンター他売上収益推移



- 商業・産業プリンティングは、大幅な増収増益となりました。
- 商業・産業IJPも市場回復が進みました。
- 完成品ビジネスは、新製品投入によるラインアップ強化の効果もあり、成長領域であるコーポレート・サイネージ・テキスタイル・ラベルなどで、販売が順調に伸長しています。
- プrintヘッド外販ビジネスは、中国市場を中心に、採用モデルが増加したことで販売が伸びました。
- 小型プリンターは、小売業や飲食業で投資再開の動きが見られるなど需要の回復が進んでいますが、供給制約があり、増収は限定的でした。

ビジュアルコミュニケーション	2020年度 Q2実績	2021年度 Q2実績	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	376	399	+23	+20	+6.2%
セグメント利益	1	47	+45	+7	+2524.2%
セグメント利益率	0.5%	11.8%			

■ ビジュアルコミュニケーション

- COVID-19からの市場回復進展
  - ・教育・ホーム向けを中心に需要は回復も、供給制約
- 構造改革による費用抑制で収益性が大幅に改善

◆ プロジェクターの販売動向<sup>\*1</sup>

	2020年度 Q2実績	2021年度 Q2実績
売上収益(円貨)	-24%	+7%
売上収益(現地通貨)	-24%	+1%
販売台数	-32%	-2%

\*1 社内管理帳に基づく指標  
 伸長率は前年同期比

マニファクチャリング関連 ウェアラブル	2020年度 Q2実績	2021年度 Q2実績	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	424	458	+34	+12	+8.2%
マニファクチャリングソリューションズ <sup>*2</sup>	77	74	-3	-	-4.8%
ウェアラブル機器	76	80	+3	-	+4.1%
マイクロデバイス他	237	268	+30	-	+12.9%
PC	35	43	+8	-	+24.3%
事業間売上収益	-3	-7	-3	-	-
セグメント利益	15	56	+40	+5	+252.7%
セグメント利益率	3.8%	12.2%			

\*2 ICハンドラー事業は2021年4月に譲渡

■ マニファクチャリング関連・ウェアラブル

- マイクロデバイス他が好調で増収増益
  - ・マニファクチャリングソリューションズは、ロボットでリチウムバッテリーや自動車関連の案件が増加
  - ・ウェアラブル機器は、海外中心に回復も国内は厳しい状態が継続
  - ・マイクロデバイス他は、水晶デバイス・半導体ともに、旺盛な需要を受けて販売好調

- ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクターが、欧米の教育市場向けや、ホーム向けで需要は旺盛なもの、半導体などの供給制約があり、販売台数は前年同期から微減となりました。一方、構造改革を実施し費用の抑制を継続していることで、収益性は大幅に改善しています。
- マニファクチャリング関連・ウェアラブルは、マイクロデバイス他が水晶デバイス、半導体ともに好調だったことにより、増収増益となりました。
- 成長領域であるマニファクチャリングソリューションズは、譲渡したICハンドラー事業のマイナス影響はありますが、ロボットで、リチウムバッテリーや自動車関連の案件が増加したことで、前年同期並となりました。
- ウェアラブル機器は、ウォッチ市場で、新型コロナウイルス影響で大きく落ち込んだ前年同期から、海外の高価格品・ムーブメントを中心に回復が進んでいますが、国内市場は依然として厳しい状況が続いています。
- 一方、収益性は、構造改革による費用抑制が進んだことで、大幅に改善しました。

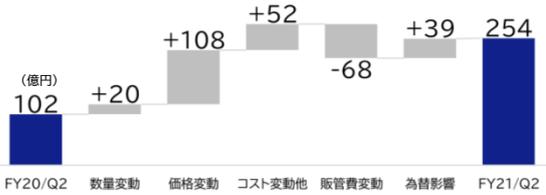
## 第2四半期実績 | 販売費及び一般管理費推移・事業利益増減要因

販管費変動 : 事業活動に制約のあった前年同期に対して増加  
: 効率的な執行を継続

販売費および一般管理費推移



事業利益の変動要因



数量変動

+ 商業・産業IJP、オフィス共有IJPなど  
- オフィス・ホームIJPインク、プロジェクター、SIDM

価格変動

+ オフィス・ホームIJP、プロジェクター、マイクロデバイスなど  
- 商業・産業IJP(本体で普及価格帯の販売が増加)

コスト変動他

+ 在庫増減影響など  
- 事業活動の回復による費用増

- 販売費及び一般管理費推移、事業利益の増減要因分析はご覧の通りです。
- スライド左側は、販管費の推移です。  
販売活動に制約のあった前年同期に対しては増加していますが、  
効率的な執行を継続しています。
- スライドの右側は、事業利益の変動要因分析です。
- 数量変動は、オフィス・ホームIJPインクやプロジェクターなどで  
マイナスとなりましたが、商業・産業IJPやオフィス共有IJPで  
販売が拡大しました。
- 価格変動は、販売価格が上昇した、オフィス・ホームIJP本体、プロジェクター、  
マイクロデバイスなどで、大きくプラスとなりました。
- コスト変動他は、事業活動に制約のあった前年同期に対して、  
費用が増加したものの、在庫増減影響によるプラスが上回りました。
- これは、前年同期に東南アジアでの操業停止影響で在庫が減少していた一方、  
当四半期は、物流混乱による洋上在庫や、  
部品調達難による仕掛品の増加があったためです。

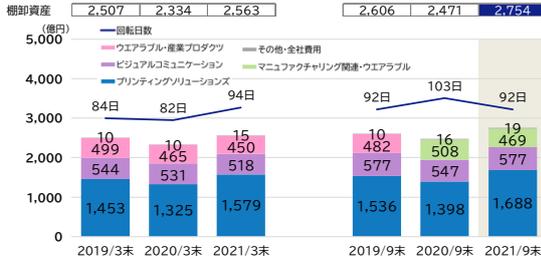
## 資産合計



## 有利子負債・有利子負債依存度



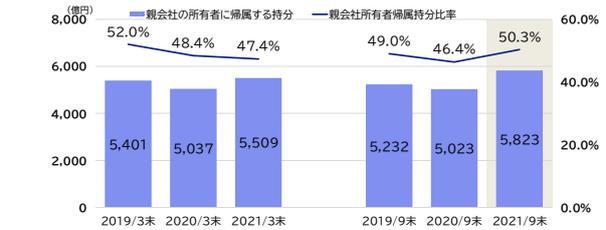
## 棚卸資産・回転日数



## ネットキャッシュ



## 親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者持分比率



※回転日数(3月末) = 連結会計期間末棚卸資産残高 / 連結会計期間末売上12ヶ月間の1日当たり売上収益  
 ※回転日数(6月末) = 連結会計期間末棚卸資産残高 / 連結会計期間末売上3ヶ月間の1日当たり売上収益

- 財政状態計算書の主要項目について、ご説明します。
- 資産合計は、前年度末に対して 39億円減少し、1兆1,573億円となりました。
- 棚卸資産は、洋上在庫や仕掛品の増加により、191億円増加の 2,754億円、回転日数は 92日となりました。
- 有利子負債は、227億円減少し、2,431億円となりました。
- 親会社の所有者に帰属する持分合計は、前年度末に対して 314億円増加し、5,823億円となりました。

- ご説明のポイント
- 第2四半期実績
- **2021年度通期業績予想**
- 株主還元
- 企業価値向上に向けた取り組み

# 2021年度 通期業績予想 | ハイライト



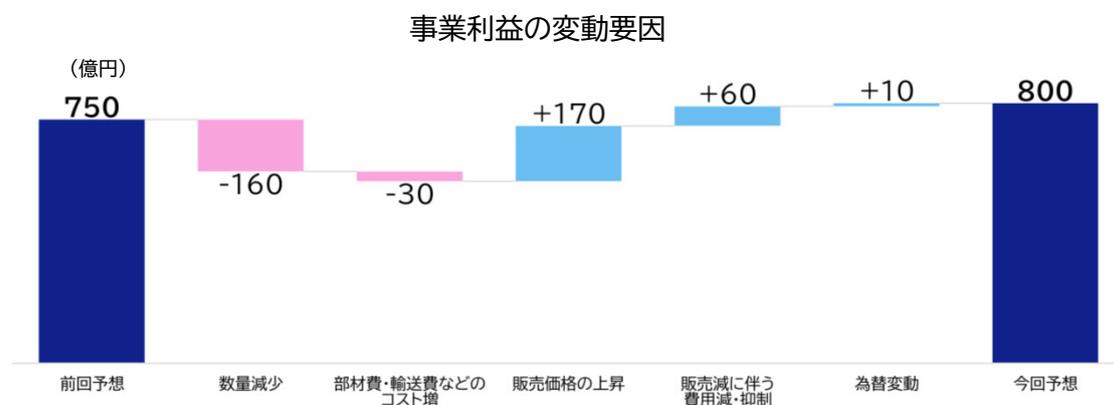
	2020年度		2021年度				増減額/増減比			
	(億円)	実績	%	7/30予想	%	今回予想	%	対前期	対7/30予想	
売上収益		9,959		11,500		11,300		+1,340 +13.5%	-200 -1.7%	
事業利益		616	6.2%	750	6.5%	800	7.1%	+183 +29.8%	+50 +6.7%	
営業利益		476	4.8%	700	6.1%	750	6.6%	+273 +57.4%	+50 +7.1%	
税引前利益		449	4.5%	670	5.8%	720	6.4%	+270 +60.2%	+50 +7.5%	
親会社の所有者に帰属する 当期利益		309	3.1%	480	4.2%	520	4.6%	+210 +68.2%	+40 +8.3%	
EPS*1(円)		89.38		138.73		150.28				
為替レート (円、指数)	USD	¥106.01		¥108.00		¥111.00				
	EUR	¥123.67		¥129.00		¥130.00				
	その他通貨*2	100		106		108				
			第3四半期以降の 為替前提(円)	USD	112.00	為替感応度*3 (億円)	USD	EUR	その他通貨 合計	年間為替 影響額見込み
				EUR	130.00	売上収益	-30	-14	-30	+490
						事業利益	+7	-9	-13	+140

\*1 EPS：基本的1株当たり当期利益  
 \*2 その他通貨の為替レートを為替率に調整して  
 加重平均した値について、前期を100とした指数  
 \*3 USD/EURは1円の円高による年間影響額（億円）  
 その他通貨は1%の円高による年間影響額（億円）

- 続きまして、通期業績予想をご説明します。
- 売上収益は、前回予想から 200億円下方修正し 1兆1,300億円、  
事業利益は、50億円上方修正し 800億円、  
当期利益は、520億円 としました。
- なお、下期の為替前提は、直近の状況を踏まえ、  
USD 112円、EUR 130円としました。
- 前年度からの 為替変動による影響は、  
売上収益で 約490億円のプラス、  
事業利益で 約140億円のプラスを見込みます。

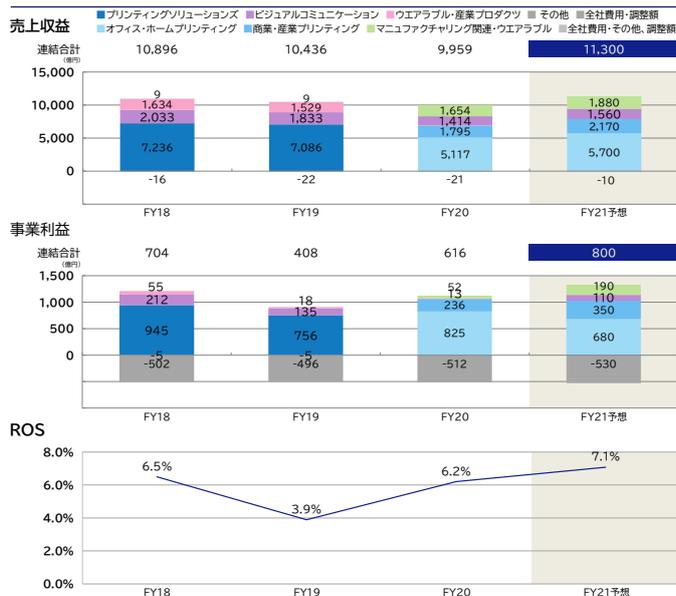
## 前回7/30予想からの事業利益の変化

- 部品調達難・物流混乱による供給制約がボトルネック
- 需給バランスを踏まえた価格対応・費用抑制により利益創出



- 前回予想からの事業利益の変化を、要因別にご説明します。
- 需要は強いものの、想定以上の供給制約がボトルネックとなり、販売数量は減少する見込みです。
- これに対して、販売価格の上昇や、販売減に伴う費用減・抑制により、前回予想値に対して、50億円の上方修正となりました。

# 前回予想からの前提の変化



## ■ 下期にかけて事業環境は変化

- 上期の事業利益は、社内計画を約100億円上回ったものの下期予想は約50億円引き下げ
- 世界経済はCOVID-19からの回復が進むものの、中国などで陰り
- 部材調達難による供給制約は悪化し、部材費は高騰
- 物流混乱は継続・輸送コストも高止まり

## ■ エプソンの対応

- 調達先の拡大や代替部品活用のための設計変更、価格対応や費用抑制を継続
- 将来成長に必要な費用投下、投資は着実に実施

\* FY18・FY19のセグメント区分は、FY21区分変更前

- 前回予想からの前提の変化について、詳しくご説明します。
- 上期の事業利益は、社内計画に対して約100億円上回ったものの、下期の予想は約50億円引き下げました。
- 足元では、世界経済は新型コロナウイルス影響からの回復が進むものの、中国などでは陰りが見られています。
- 半導体などの部材調達難や、物流の混乱は深刻化しており、供給制約やコスト増は下期に一段と悪化を見込みます。
- こうした状況の中、エプソンは、下期も、調達先の拡大や代替部品活用のための設計変更に加え、価格対応や費用抑制を継続します。ただし、将来成長に必要な費用投下、投資は着実に実施していきます。

# 2021年度通期業績予想 | プリンティングソリューションズ

プリンティングソリューションズ	2020年度 実績	2021年度 7/30予想	2021年度 今回予想	対前期 増減額	対前期 増減率	(億円) 対7/30 予想
売上収益	6,911	8,070	7,870	+958	+13.9%	-200
セグメント利益	1,062	1,010	1,030	-32	-3.0%	+20
セグメント利益率	15.4%	12.5%	13.1%			

オフィス・ホームプリンティング	2020年度 実績	2021年度 7/30予想	2021年度 今回予想	対前期 増減額	対前期 増減率	対7/30 予想
売上収益	5,117	5,840	5,700	+582	+11.4%	-140
構成比						
オフィス・ホームIJP	86%	88%	88%			
SIDM	5%	5%	5%			
その他	9%	7%	7%			
事業利益	825	630	680	-145	-17.6%	+50
事業利益率	16.1%	10.8%	11.9%			

商業・産業プリンティング	2020年度 実績	2021年度 7/30予想	2021年度 今回予想	対前期 増減額	対前期 増減率	対7/30 予想
売上収益	1,795	2,230	2,170	+374	+20.9%	-60
商業・産業IJP	1,230	1,590	1,550	+319	+26.0%	-40
小型プリンター他	564	640	620	+55	+9.8%	-20
事業利益	236	380	350	+113	+47.7%	-30
事業利益率	13.2%	17.0%	16.1%			

## ■ オフィス・ホームプリンティング

- 需要は強いものの供給制約がボトルネック
- 部品コストの増、輸送コストの高止まり
- 価格対応・費用抑制を継続

## ■ 商業・産業プリンティング

- 商業・産業IJPは第2四半期まで順調に伸長してきたものの、業務用フォトプリンターで一時的な需要変動、中国などで経済活動に陰り
- 小型プリンターは部品調達難による供給制約

販売動向(社内管理値に基づく指標)	FY20 実績	FY21 7/30予想	FY21 予想	
オフィス・ホームIJP 本体販売数量	伸長率 約、万台	-2%	+24%	+15%
内 大容量インクタンクモデル	1,040	1,340	1,240	
内 SOHO・ホーム向けI/Cモデル	460	520	500	
内 オフィス共有IJP	30	35	30	
オフィス・ホームIJP インク売上収益伸長率	(円貨) (現地通貨)	+6%	-2%	-2%
オフィス・ホームIJP内 オフィス共有IJP売上収益比率	+7%	—	—	
	9%	11%	11%	

- プリンティングソリューションズの通期予想はご覧のとおりです。
- セグメント全体では、売上収益を下方修正しますが、セグメント利益を上方修正します。
- オフィス・ホームプリンティングは、売上収益を 140億円 下方修正し、5,700億円、事業利益は 50億円 上方修正し、680億円とします。
- 在宅需要と、市場の回復により需要は強いものの、供給制約があり、大容量インクタンクモデルの販売台数は、前年度から約20%増の 1,240万台に留まります。
- 一方、価格対応や費用抑制の継続により、利益は確保します。
- なお、インク販売は、第2四半期の実績も想定通りであり、前回予想から大きな変更はありません。
- 商業・産業プリンティングは、売上収益を 60億円 下方修正し 2,170億円、事業利益を 30億円 下方修正し、350億円とします。
- 商業・産業IJPは、第2四半期までは順調に伸長してきたものの、業務用フォトプリンターの一時的な需要変動や、中国などで見られる経済活動の陰りなどを織り込みました。
- また、小型プリンターでは、部品調達難によるマイナス影響を見込みます。

# 2021年度通期業績予想

ビジュアルコミュニケーション  
マニファクチャリング関連・ウェアラブル



ビジュアルコミュニケーション	2020年度 実績	2021年度 7/30予想	2021年度 今回予想	対前期 増減額	対前期 増減率	(億円) 対7/30 予想
売上収益	1,414	1,560	1,560	+145	+10.3%	-
セグメント利益	13	110	110	+96	+715.6%	-
セグメント利益率	1.0%	7.1%	7.1%			

## ■ ビジュアルコミュニケーション

- ・ プロジェクター需要は回復傾向にあるものの、部材調達難により、前回予想からモデルミックスが悪化
- ・ 価格対応・費用抑制を継続

◆ プロジェクターの販売動向<sup>\*1</sup>

	2020年度 実績	2021年度 7/30予想	2021年度 今回予想
販売台数(約、万台)	170	170	170
伸長率	-30%	+1%	+3%

\*1 社内管理値に基づく指標  
伸長率は前年同月比

マニファクチャリング関連 ・ウェアラブル	2020年度 実績	2021年度 7/30予想	2021年度 今回予想	対前期 増減額	対前期 増減率	(億円) 対7/30 予想
売上収益	1,654	1,870	1,880	+225	+13.6%	+10
マニファクチャリングソリューションズ <sup>*2</sup>	286	300	270	-16	-5.8%	-30
ウェアラブル機器	281	330	330	+48	+17.2%	-
マイクロデバイス他	943	1,090	1,130	+186	+19.7%	+40
PC	165	180	180	+14	+8.7%	-
事業間売上収益	-23	-30	-30	-6	-	-
セグメント利益	52	180	190	+137	+259.7%	+10
セグメント利益率	3.2%	9.6%	10.1%			

\*2 ICハンドラー事業は2021年4月に譲渡

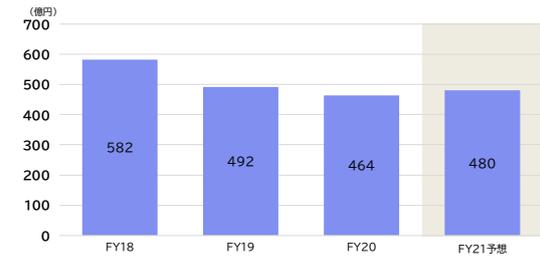
## ■ マニファクチャリング関連・ウェアラブル

- マニファクチャリングソリューションズ
  - ・ 中国で部材不足などによる顧客の投資計画に変化
- ウェアラブル機器
  - ・ 収益性の改善に継続的に取り組む
- マイクロデバイス他
  - ・ 旺盛な需要を受け、水晶デバイス・半導体ともに好調

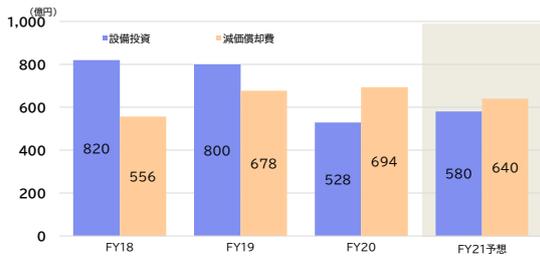
- ビジュアルコミュニケーションは、第2四半期は社内計画を上回りましたが、通期では、売上収益 1,560億円、セグメント利益 110億円と前回予想を据え置きました。
- 下期のプロジェクター市場は、中国で、政策影響による教育向け需要の落ち込みを見込むものの、欧米の教育用途や、ホーム向けなど、全体としては回復基調です。
- 一方、前回予想時よりも、部品調達難が、低価格モデルで改善されるものの、高価格モデルでは悪化し、モデルミックスの変化によるマイナス影響を見込みます。
- マニファクチャリング関連・ウェアラブルは、売上収益を10億円上方修正し、1,880億円、セグメント利益を10億円上方修正し、190億円とします。
- マニファクチャリングソリューションズのロボットで、中国で部材不足などによる顧客の投資計画の変化を織り込みました。
- マイクロデバイス他は、水晶デバイスや半導体の旺盛な需要を受け、上方修正しました。

# 2021年度通期業績予想 | 主要費用・フリーキャッシュフロー・経営指標 **EPSON** EXCEED YOUR VISION

## 研究開発費

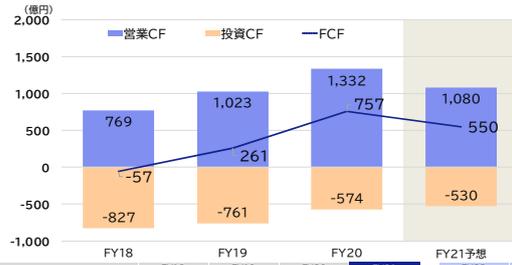


## 設備投資・減価償却費



\*1 FY18の設備投資・減価償却費にはリース分を含まない

## フリー・キャッシュ・フロー



主要経営指標	FY18 実績	FY19 実績	FY20 実績	FY21 予想	FY23 目標	FY25 目標
為替レート:USD	110.86	108.74	106.01	111円	-	-
為替レート:EUR	128.40	120.85	123.67	130円	-	-
売上収益	10,896	10,436	9,959	11,300億円	-	-
事業利益	704	408	616	800億円	-	-
親会社の所有者に帰属する当期利益	537	77	309	520億円	-	-
ROS <sup>*1</sup>	6.5	3.9	6.2	7.1%	8%以上	10%以上
ROA <sup>*2</sup>	6.8	3.9	5.6	6.8%	-	-
ROE <sup>*3</sup>	10.2	1.5	5.9	9.2%	10%以上	13%以上
ROIC <sup>*4</sup>	7.2	4.1	5.6	6.8%	8%以上	11%以上

\*1 売上収益事業利益率=事業利益/売上収益  
 \*2 資産合計事業利益率=事業利益/期首・期末資産合計平均  
 \*3 親会社所有者帰属持分当期利益率=親会社の所有者に帰属する当期利益/期首・期末親会社の所有者に帰属する持分平均  
 \*4 投下資本利益率=税引後事業利益/(親会社の所有者に帰属する持分+有利子負債)  
 親会社の所有者に帰属する持分および有利子負債は期首・期末平均

- 研究開発費は、前回予想から変更はありません。
- 設備投資は環境変化を受けて投資時期を見直し、前回予想から 20億円減の 580億円となりました。
- 減価償却費は前回予想から変更はありません。
- キャッシュフローは、営業キャッシュフロー、投資キャッシュフローともに修正した結果、フリーキャッシュフローは前回予想より100億円上方修正し、550億円を予想します。
- 主要経営指標はご覧のとおりです。資本コストをより意識して、収益性を重視した経営に取り組んでまいります。

- ご説明のポイント
- 第2四半期実績
- 2021年度通期業績予想
- **株主還元**
- 企業価値向上に向けた取り組み

➤ 株主還元についてご説明します。

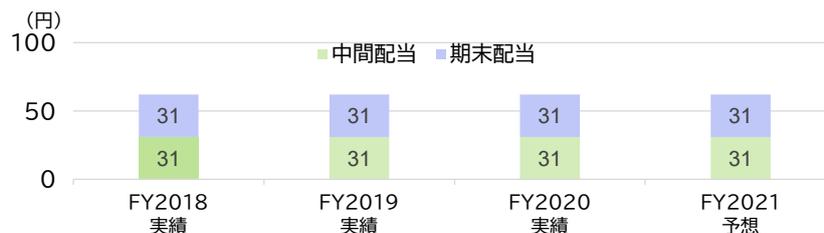
## ■ 基本方針

- 強固な財務構造の構築と、積極的な利益還元とに並行して取り組む
  - ✓ 中期的には連結配当性向\*40%程度を目標
  - ✓ 株価水準や資金の状況などを総合的に勘案し、必要に応じて機動的に自己株式を取得

\*事業利益から法定実効税率相当額を控除した額を元に算出

## ■ 配当実績・予想

- 前年度と同額の1株当たり62円



© Seiko Epson Corporation, 2021

20

- 強固な財務構造の構築と、積極的な利益還元とに並行して取り組むことを、株主還元の基本方針に据えています。
- 2021年度の配当予想は変わらず、前年度と同額の、1株当たり62円の予想です。

- ご説明のポイント
- 第2四半期実績
- 2021年度通期業績予想
- 株主還元
- **企業価値向上に向けた取り組み**

➤ 企業価値向上に向けた、上期のトピックスをご紹介します。

## ■ 完成品ビジネス

- 新プラットフォーム



プリントヘッド、インク、インク供給システム、制御システムなどとの組み合わせで、多様な領域に展開可能

## ■ プリントヘッド外販ビジネス

- サイネージ向け新シリーズ



6シリーズに拡充したラインアップでデジタル印刷機市場を活性化

<ご参考資料> 商業・産業IJP(完成品ビジネス)スモールミーティング、プリントヘッド外販事業戦略説明会  
<https://www.epson.jp/IR/library/presentations.htm>

- エプソンが成長領域と位置づける商業・産業IJP事業において、完成品ビジネス、プリントヘッド外販ビジネスともに、ラインアップを着実に拡充しました。
- 今後も、成長領域に積極的に投資し、中長期的な成長を目指します。

### ■ 製造業初\*1、国内拠点\*2の使用電力を100%再生可能エネルギー化

- 当初計画を前倒しで実現
- エプソングループ全拠点\*2での達成(2023年予定)に向け、取り組みを継続

\*1 国内のRE100加盟企業の内。2021年10月27日時点 \*2 一部販売拠点などの賃借物件は除く

### ■ EcoVadis社のサステナビリティ評価で最高位の「プラチナ」を2年連続で獲得



### ■ Forbes JAPAN「最強のサステナブル企業100社」総合1位に選出



Forbes JAPAN 2021年11月号

### ■ 統合レポートを発行

[https://www.epson.jp/IR/library/integrated\\_report.htm?fwlink=ir\\_top](https://www.epson.jp/IR/library/integrated_report.htm?fwlink=ir_top)

- 最後に、持続可能な社会の実現に向けた取り組みについてご説明します。
- 当初の計画を前倒しで実現し、この11月から、日本国内の全拠点で使用する電力の100%を再生可能エネルギーに転換します。
- このような社会的責任を果たす活動が認められ、EcoVadis社のサステナビリティ評価において、2年連続で最高位の「プラチナ」に格付けされました。
- また、「Forbes JAPAN」が選ぶ「最強のサステナブル企業100社」の総合1位に選出されました。
- SDGs達成に向けた取り組みは統合レポートで公開していますので、ぜひご覧ください。
- 以上

**EPSON**  
EXCEED YOUR VISION

## 補足資料

# 2021年度 第2四半期累計実績 | ハイライト

	2020年度		2021年度		前年同期比	
	(億円) Q2累計実績	%	Q2累計実績	%	増減額	増減率
売上収益	4,391		5,505		+1,114	+25.4%
事業利益	146	3.3%	497	9.0%	+350	+239.2%
営業利益	92	2.1%	481	8.7%	+388	+418.2%
税引前利益	69	1.6%	478	8.7%	+408	+586.1%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	42	1.0%	364	6.6%	+322	+762.4%
EPS*1(円)	12.23		105.49			
為替レート (円、指数)	USD	¥106.85	¥109.77			
	EUR	¥121.24	¥130.84			
	その他通貨*2	100	110			

為替影響額 (億円)	USD	EUR	その他通貨 合計	合計
売上収益	+47	+65	+141	+254
事業利益	-8	+42	+79	+113

\*1 EPS:基本的1株当たり当期利益

\*2 その他通貨の各レートを為替ボリュームに応じて  
加重平均した値について、前年同期を100とした指数

# 2021年度 第2四半期累計実績 | プリンティングソリューションズ



(億円)

プリンティングソリューションズ	2020年度 Q2累計	2021年度 Q2累計	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	3,007	3,755	+748	+181	+24.9%
セグメント利益	387	550	+162	+80	+41.9%
セグメント利益率	12.9%	14.7%			

(億円)

オフィス・ホームプリンティング	2020年度 Q2累計	2021年度 Q2累計	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	2,247	2,670	+422	+128	+18.8%
構成比 オフィス・ホームIJP	86%	87%			
SIDM	6%	5%			
その他	8%	8%			
事業利益	349	335	-14	+54	-4.0%
事業利益率	15.6%	12.6%			

(億円)

商業・産業プリンティング	2020年度 Q2累計	2021年度 Q2累計	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	759	1,086	+326	+53	+42.9%
商業・産業IJP	506	771	+264		+52.2%
小型プリンター他	253	314	+61		+24.3%
事業利益	38	215	+176	+25	+461.4%
事業利益率	5.0%	19.8%			

# 2021年度 第2四半期累計実績 | ビジュアルコミュニケーション マニファクチャリング関連・ウェアラブル



(億円)

ビジュアルコミュニケーション	2020年度 Q2累計	2021年度 Q2累計	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	611	806	+194	+47	+31.8%
セグメント利益	-26	92	+118	+23	-
セグメント利益率	-4.3%	11.4%			

(億円)

マニファクチャリング関連 ・ウェアラブル	2020年度 Q2累計	2021年度 Q2累計	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	779	954	+175	+25	+22.5%
マニファクチャリングソリューションズ*	144	167	+22		+15.8%
ウェアラブル機器	130	173	+42		+32.7%
マイクロデバイス他	442	544	+101		+23.0%
PC	71	84	+12		+17.6%
事業間売上収益	-9	-14	-5		-
セグメント利益	26	113	+86	+9	+320.6%
セグメント利益率	3.5%	11.9%			

\* ICハンドラー事業は2021年4月に譲渡

# 主要製品の販売動向

			FY2020 Q1 実績	FY2020 Q2 実績	FY2020 Q3 実績	FY2020 Q4 実績	FY2020 通期 実績	FY2021 Q1実績	FY2021 Q2実績	FY2021 通期 予想	
*社内管理値に基づく指標 伸長率は前年同期比			USD	107.54	106.16	104.48	105.86	106.01	109.46	110.08	
			EUR	118.39	124.10	124.51	127.68	123.67	131.91	130.00	
オフィス・ホーム プリンティング	オフィス・ホーム IJP 本体	売上収益(円貨)	伸長率	-14%	+2%	+17%	+36%	+12%	+85%	+20%	+26%
		売上収益(現地通貨)	伸長率	-8%	+5%	+22%	+37%	+15%	+74%	+14%	-
		本体数量	伸長率	-17%	-9%	+2%	+14%	-2%	+63%	+4%	+15%
		内 大容量インクタンクモデル	台数(万台)	-	-	-	-	約1,540	-	-	約1,770
		内 SOHO・ホーム向け I/Cモデル	台数(万台)	-	-	-	-	約1,040	-	-	約1,240
		内 オフィス共有IJP	台数(万台)	-	-	-	-	約460	-	-	約500
		内 オフィス共有IJP	台数(万台)	-	-	-	-	約30	-	-	約30
	オフィス・ホーム IJP インク	インク売上収益比率 インク÷(本体+インク)	構成比	-	-	-	-	47%	-	-	41%
		売上収益(円貨)	伸長率	+15%	+7%	+5%	-1%	+6%	-7%	-4%	-2%
		売上収益(現地通貨)	伸長率	+19%	+8%	+6%	-1%	+7%	-11%	-7%	-
	オフィス共有IJP 本体+インク	オフィス・ホームIJP内 売上収益比率	構成比	9%	10%	9%	11%	9%	11%	11%	11%
		売上収益(円貨)	伸長率	-43%	-16%	-19%	+28%	-17%	+40%	-20%	+4%
	SIDM 本体	売上収益(現地通貨)	伸長率	-40%	-15%	-18%	+26%	-16%	+30%	-25%	-
		本体数量	伸長率	-39%	-16%	-22%	+33%	-16%	+25%	-28%	-5%
売上収益(円貨)		伸長率	-52%	-24%	-13%	+4%	-23%	+72%	+7%	+11%	
ビジネス コミュニケーション	プロジェクター 本体	売上収益(現地通貨)	伸長率	-50%	-24%	-12%	+3%	-22%	+60%	+1%	-
		本体数量	伸長率	-57%	-32%	-20%	-6%	-30%	+67%	-2%	+3%
		本体数量	台数(万台)	-	-	-	-	約170	-	-	約170
		本体数量	台数(万台)	-	-	-	-	約170	-	-	約170

# 財務データ(2020年度・2021年度)

		FY2020	FY2020	FY2020	FY2020	FY2020	FY2021	FY2021	FY2021	FY2021	(億円)
		Q1	Q2	Q3	Q4	実績	Q1	Q2	Q3	Q4	FY2021
		実績	実績	実績	実績		実績	実績	実績	実績	予想
為替レート	USD	107.54	106.16	104.48	105.86	106.01	109.46	110.08			111.00
(円)	EUR	118.39	124.10	124.51	127.68	123.67	131.91	129.77			130.00
プリンティングソリューションズ	売上収益	1,343	1,663	1,952	1,951	6,911	1,923	1,832			7,870
	セグメント利益	171	216	401	272	1,062	266	283			1,030
オフィス・ホームプリンティング	売上収益	1,024	1,223	1,448	1,421	5,117	1,371	1,298			5,700
	事業利益	177	172	307	168	825	147	187			680
商業・産業プリンティング	売上収益	319	440	504	530	1,795	551	534			2,170
	事業利益	-6	44	94	103	236	119	96			350
ビジュアルコミュニケーション	売上収益	235	376	407	395	1,414	407	399			1,560
	セグメント利益	-27	1	17	22	13	44	47			110
マニファクチャリング関連・ウエアラブル	売上収益	355	424	432	442	1,654	495	458			1,880
	セグメント利益	10	15	18	7	52	56	56			190
全社費用・その他、調整額	売上収益	-2	-4	-5	-9	-21	-4	-6			-10
	セグメント利益	-110	-131	-126	-143	-512	-126	-132			-530
	売上収益	1,932	2,459	2,788	2,779	9,959	2,821	2,684			11,300
	事業利益	43	102	311	157	616	242	254			800
	ROS	2.3%	4.2%	11.2%	5.7%	6.2%	8.6%	9.5%			7.1%
連結合計											
研究開発費		113	110	120	120	464	113	117			480
設備投資	プリンティングソリューションズ	44	92	65	70	272	51	60			310
	ビジュアルコミュニケーション	20	27	14	18	80	9	9			60
	マニファクチャリング関連・ウエアラブル	16	26	18	43	105	14	21			130
	全社費用・その他	7	16	19	26	69	6	9			80
減価償却費	プリンティングソリューションズ	96	94	94	94	380	94	92			370
	ビジュアルコミュニケーション	31	31	33	33	130	26	25			100
	マニファクチャリング関連・ウエアラブル	26	26	26	23	103	21	21			90
	全社費用・その他	20	20	19	19	79	19	19			80
営業CF		118	336	476	400	1,332	213	349			1,080
FCF		-54	174	355	282	757	98	244			550

# 海外売上収益・従業員数

## 海外売上収益

為替レート(円)	USD	109.93	107.31	108.72	109.00	107.54	106.16	104.48	105.86	109.46	110.08
	EUR	123.54	119.34	120.35	120.18	118.39	124.10	124.51	127.68	131.91	129.77

売上収益(億円)	FY19/Q1	FY19/Q2	FY19/Q3	FY19/Q4	FY20/Q1	FY20/Q2	FY20/Q3	FY20/Q4	FY21/Q1	FY21/Q2	対前年同期
米州	745	717	712	753	598	719	733	827	852	801	+81
欧州	479	537	593	529	397	500	587	598	583	571	+71
アジア・オセアニア	725	758	744	585	495	739	797	749	868	789	+49
海外売上収益計	1,951	2,014	2,051	1,869	1,490	1,959	2,119	2,175	2,304	2,162	+202
連結合計	2,496	2,664	2,798	2,476	1,932	2,459	2,788	2,779	2,821	2,684	+225

構成比	FY19/Q1	FY19/Q2	FY19/Q3	FY19/Q4	FY20/Q1	FY20/Q2	FY20/Q3	FY20/Q4	FY21/Q1	FY21/Q2
米州	29.9%	26.9%	25.5%	30.4%	31.0%	29.3%	26.3%	29.8%	30.2%	29.9%
欧州	19.2%	20.2%	21.2%	21.4%	20.6%	20.4%	21.1%	21.5%	20.7%	21.3%
アジア・オセアニア	29.1%	28.5%	26.6%	23.7%	25.6%	30.1%	28.6%	27.0%	30.8%	29.4%
海外売上収益計	78.2%	75.6%	73.3%	75.5%	77.2%	79.7%	76.0%	78.3%	81.7%	80.6%

## 従業員数

期末従業員数(人)	2019/6末	2019/9末	2019/12末	2020/3末	2020/6末	2020/9末	2020/12末	2021/3末	2021/6末	2021/9末	対前年同期
国内	19,879	19,825	19,456	19,558	19,962	19,723	19,620	19,470	19,827	19,805	+82
海外	58,918	58,914	57,191	56,050	57,107	59,287	62,618	60,474	60,813	60,000	+713
連結合計	78,797	78,739	76,647	75,608	77,069	79,010	82,238	79,944	80,640	79,805	+795

# 事業セグメントの変更

変更前(2020年度)

プリンティングソリューションズ	
プリンター	
オフィス・ホームIJP	
大容量インクタンクモデル	
SOHO・ホーム向けI/Cモデル	
オフィス共有IJP	
SIDM	
その他	
プロフェッショナルプリンティング	
商業・産業IJP	
小型プリンター他	
その他(PC他)	
ビジュアルコミュニケーション	
ウェアラブル・産業プロダクト	
ウェアラブル機器	
ロボティクスソリューションズ	
マイクロデバイス他	
その他	
全社費用	

変更後(2021年度)

プリンティングソリューションズ	
オフィス・ホームプリンティング	
オフィス・ホームIJP	
大容量インクタンクモデル	
SOHO・ホーム向けI/Cモデル	
オフィス共有IJP	
SIDM	
その他	
商業・産業プリンティング	
商業・産業IJP	
小型プリンター他	
ビジュアルコミュニケーション	
マニファクチャリング関連・ウェアラブル	
マニファクチャリングソリューションズ*	
ウェアラブル機器	
マイクロデバイス他	
PC	
その他	
全社費用・その他	



\*全社費用のマニファクチャリング関連商品を、マニファクチャリングソリューションズ事業に移管

# ビジネス領域

イノベーション

オフィス・ホーム プリンティング  
イノベーション

商業・産業 プリンティング  
イノベーション

ビジュアル  
イノベーション

マニュファクチャリング  
イノベーション

ライフスタイル  
イノベーション

セグメント

プリンティングソリューションズ

ビジュアル  
コミュニケーション

マニュファクチャリング関連・ウエアラブル

事業  
主要製品

オフィス・ホームプリンティング

オフィス・ホームIJP

SOHO・ホーム



大容量インクタンクモデル インクカートリッジモデル

オフィス共有



高速  
ラインインクジェット  
複合機 (LLI)

大容量インク  
パックモデル  
(RIPS)

オフィス向け  
インクカートリッジ  
モデル



SIDM

スキャナー

PaperLab

レーザープリンター

商業・産業プリンティング

商業・産業IJP

完成品ビジネス



フォト コーポレート

サイネージ ラベルプリンター

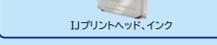
テキスタイル ラベル印刷機

プリントヘッド外販ビジネス

IJプリントヘッド、インク

小型プリンター他

小型プリンター 小型ラベルプリンター



小型 ライティング

HMD

小型 ライティング

HMD

プロジェクター

高光束

超短焦点

スタンダード

ホーム

小型

ライティング

HMD

マニュファクチャリング  
ソリューションズ

ロボット

スカラ

6軸

オプション

小型射出成型機

ウエアラブル機器

エプソンブランド

TRUME

オリエント

ムーブメント

セイコービジネス

マイクロ  
デバイス他

マイクロデバイス

水晶デバイス

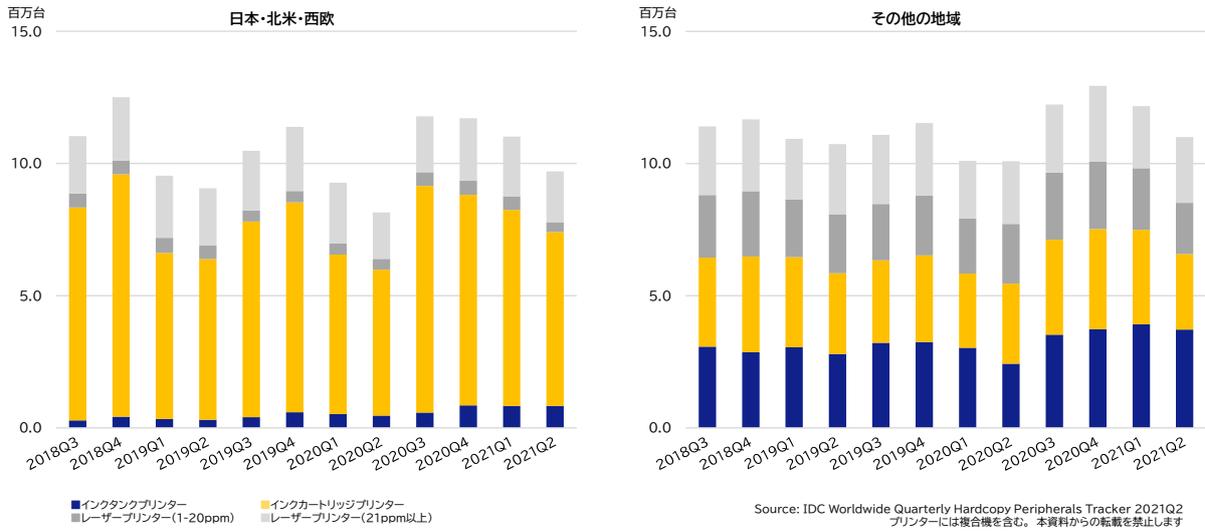
EPSON EXTERNAL

半導体

PC

エプソンダイレクト  
PC

## A4サイズプリンターのタイプ別市場推移(暦年)



I/C	Ink Cartridge, インクカートリッジ
IJP	Inkjet Printer, インクジェットプリンター
LIJ	Line Inkjet Printer, 高速ラインインクジェット複合機
LP	Laser Printer, レーザープリンター(複合機含む)
RIPS	Replaceable Ink Pack System, 大容量インクパックモデル
大容量インクタンクモデル	エコタンク搭載インクジェットプリンター
大容量インクモデル	大容量インクタンクモデル、大容量インクパックモデル(RIPS)、高速ラインインクジェット(LIJ)の総称
SOHO	Small Office Home Office, 小規模オフィス・ホームオフィス
オフィス共有IJP	商品カテゴリの1つ。高プリントボリュームオフィス向けプリンター。I/Cモデル,RIPS,LIJを含む
商業・産業IJP完成品ビジネス	商業・産業用大判インクジェットプリンター本体・インク・サービスなどを含む
プリントヘッド外販ビジネス	プリントヘッド、インクなどを含む
Epson Connect	エプソンの商品・サービスを対象としたモバイル・クラウドサービス
Color Control Technology	商業・産業印刷における色再現性を高めるカラーマネジメント技術
分散印刷	同一内容の印刷データを複数のプリンターを用いて印刷する方法
SIDM	Serial Impact Dot Matrix Printer
3LCD	プロジェクター方式の1つ。液晶パネル3枚を使う方式
高光束プロジェクター	交換レンズ機能付き高輝度プロジェクター
FPD	Flat Panel Display, フラットパネルディスプレイ
OLED	Organic Light Emitting Diode(有機EL)
WP	ウェアラブル機器事業
MD他	マイクロデバイス他事業

**EPSON**  
EXCEED YOUR VISION